

# 提言

## 新元号とともに 新たな国の行く末を示す指標を。

本誌主幹 大中吉一

いよいよ一年後の5月1日に新元号がスタートする。今上陛下が退位され、新たな元号とともに新しい時代がやって来るのだ。

振り返ってみれば明治以降およそ150年。明治、大正、昭和とそれぞれの時代にすばらしい偉人が登場し、偉大なる足跡を残してきている。遡れば、天保年間に吉田松陰を筆頭とする松下村塾に集った面々然り、万延元年に咸臨丸で米国に渡り新たな時代を推進した勝海舟や福沢諭吉然り、彼ら抜きに明治維新は成し遂げられなかっただろう。それぞれの偉人たちが次の時代に繋がる偉業を残し、その足跡は我が国の歴史にしっかりと残されている。偉人たちは未来を見据え、日本の行く末を真剣に考えていたのである。

新たな元号を前に、果たして平成の世に偉人は登場したのだろうか。偉人たちは新たな時代を探求し、今の時代に足跡を残し、そして潔く退き、消えて行った。果たして、平成の世に足跡は残されたのだろうか。

否が応でも、一年後には新しい元号が掲げられ、新たな時代がやって来る。日本は新たな元号に向けて新たな国づくりを始めなければならないのだ。戦後75年、ここまで復興した国はほかにはない。それを成し遂げたのは昭和の偉人たちと言えるだろう。その主役は国民たちであったことを再認識しなければならない。国民はそのことに自信を持つことが第一である。

確かに、世界に誇れるものであった日本の技術は、昨年から今年にかけて起こったデータ改ざん問題などで地に落ちた感は否めない。しかし、まだまだ日本の技術は世界に評価され、圧倒的な優位性を保持しているのだ。

新たな元号とともに、我々日本人はこうしたスキャンダルをリセットし、再スタートを切らなければならないのだ。国民も、衆参両院の代議士も議長も、そして次世代の首脳たちも、新たな時代がどうあるべきかをしっかりと考えて行動しなければならない。本誌でも繰り返し述べてきたが、そのためにも現在の日本の首脳陣たちは潔く退き、新たな時代のための道を拓く時が来ているのである。

秋に行われる自民党の総裁選においても、国民からの信頼をいかに回復するかが大きなテーマになるはずである。現在の首脳たちは、しっかりと国民の声に耳を傾け、出処退進を明らかにするとともに後進に道を譲る時が来ているのである。

新たな時代に向けて、この国のかたち、この国のゆくえというものをしっかりと明示し、そしてその指標に国民がついていけるような政策を実現していただきたい。